

残りの者 シャーアル

石巻祈りの家NEWS LETTER 「シャーアル」(132号)
986-0801 宮城県石巻市水明北3丁目13番28号
TEL /0225-96-1497 Email/ hjm-ja2@yg8.so-net.ne.jp
振替口座 02290-6-126186 口座名称 阿部 一
●代表/阿部 一 ●副代表/菊池せい子

信仰：受けた恵みを忘れずに

- 石巻は、例年と比べれば温かい冬で、3月に近づくにつれて日射しも強くなり、冬の厳しい東北の人にとっては春が間もなく来るというこの予感は大きな喜びです。
- この月は、2011年の東日本大震災を経験して今年で8年を経過しました。地方の小さな市に高層の復興住宅が建ち並び、街中もそんな大災害があったのかと思わせるほどに回復してきています。しかし、海岸地域で今も続くインフラ整備や広大な荒れ地を見ると、復興の難しさを感じさせられます。
- 何よりも大きな課題は、被災者の人間関係の分断で、復興住宅での孤独死や人間関係の協力の難しさが、新たな問題として指摘されています。
- そんな中で、地域教会は「南三陸3.11東日本大震災追悼記念会」を、多くのアーチストとボランティアの協力を得て継続して来ました。この3月も東松島（3/9）と女川（3/11）の2箇所で開催されます。関心が薄れて行く中で、地域教会が協力して被災者に寄り添い続ける発信をするこの活動のために、是非祈りの支えとご協力をお願ひいたします。
- あの未曾有と言われた大震災を、もう一度振り返る時に、被災者の私たちに、国内外の国々、各種の支援団体、ボランティア、教会、信徒、個人を通してなされたさまざまな支援は、大きな壁を乗り越えてなされたものでした。
- それらの膨大な支援なしには、この被災地の今の復興はあり得なかつたと深く思われています。この混迷し自益優先の社会において、私たち被災者に寄せて下さったその行動は、神の似姿に造られた人間の良き一面が現されたものだと1つの希望を与えられました。
- 一方、この大震災は自然災害であるが故に、誰にもその責任を求めることができないものです。その中で、見返りを求めず深い同情の温かい心からの支援は、私たちにとってまさに恩寵そのものでありました。
- しかし、当時はその援助に心からの感謝を持っていた被災者が、時間経過と元の生活環境に戻るにつれて、その恩恵を忘れて来ているのではないかの思いがします。
- 私たちクリスチヤンも、以前は、神に背を向け、自分の思いのままに滅びへの道を歩んでいた者でした。震災の被災者と同じように何も受ける資格がない者が神の一方的な憐れみによって救い出されたのです。
- この第8回目の3.11を迎えるに当たり、もう一度あの時受けた恵みを思い起こし、感謝だけに留まらず、その受けた愛を、今度は他の災害被災地の方々や困難を抱えている隣人に差し出す信仰の歩みを求められているような気がします。

■ 先月の多くの恵みから

- ① インフルエンザで約1ヶ月体調不良で十分な活動ができませんでした。皆さんの祈りと励ましにより回復に向かっています、心から感謝いたします。その間も教会の各種定期集会が休むことなく会員の献身的な奉仕で守られ継続できました
- ② 2/11に、古川の斎藤皓子姉を今年も訪ねることができました。16年前に、御主人が職場での不慮の事故で即死で天に召され、真っ直ぐな信仰の兄に出会えた幸いを感謝し、記念日のこの日毎年訪ね、祈りと交わりの時を頂いています。
- ③ 2/21に、永井敏夫師より連絡のあったカナダの宣教学者Steaven師が中橋兄と訪問下さり、日本の宣教の課題と大震災時の宣教についての質問に答え、お交わりを頂きました。

● <祈りの要請> 3/9東松島コミュニティー・センター：3/11女川まちなみ交流館での3.11大震災追悼祈念会の祝福のために



キリスト・イエスにある恵みによって強くなりなさい。 ハテモテ2/1

④ 30年前に教会に来られていて、就職のために石巻を離れたS兄が、現在健康を害されてい休職の中。DRCnetのホームページに掲載されている私たちの月報「シャーアル」を見つけられて2/15に訪問下さいました。抱えている問題について心を割って話し合い、重荷を神に委ね、神の支えを信じて生きることをお話しできました。回復のためにお祈り下さい。

⑤ 仙台の姉妹から要請のあったSさん（3回の脳梗塞で寝たきりの状態）を介護施設に2/25に訪問しました。高校時代に教会に通っていたとのことで「主われをあいす」を歌い出したら、その賛美を覚えておられて一緒に何回も賛美し、さらに、詩篇23編を読み、祈りの時を持つことができました。心が開かれて信仰を持つができるようにお祈り下さい。

⑥ 2/5に横須賀の精木紀男先生より、自宅で育てられたキンカンを沢山送って頂きました。

⑦ 川上直哉師によるオアシス教会での市内教会合同学習会「ゆるしについて」の学び会が終わり、20/20に今回は、福島の原発事故と現状、課題について学びました。

⑧ 2月も皆さまからの献金、メイル、電話、手紙、祈りの励ましで、小さい群の活動が維持され心から感謝いたします。

■ 今月も以下の課題を祈って頂けるようお願いします

- ① 今野かつ子さん/二平幸子さん/新井李恵子姉/鈴木手以師の治療のために。
- ② 石巻地区の各教会の働きのために。地域より求道者が起こされるように。
- ③ 大平英秀さんのために
- ④ 九州・西日本・北海道の被災者のために。
- ⑤ 今年の3.11東日本大震災追悼記念会を通して被災者が慰めを得られるように。

群の定期集会

・礼拝（毎週日曜日）	10:00-11:30
・祈り会（毎週水曜日）	10:00-11:30
・聖書を読む会（第1火曜日）	10:30-12:00
・ほっこ・Time（第3火曜日）	10:30-12:00
・コーラス「花」（第2,4木曜日）	13:30-15:00
・楽しい手芸（第2,4月曜日）	10:00-12:00
・学習支援（地域の子どもの要望に応えて）	

信仰を詠う

3月 老ひのしづく

これが老ひ、歩道橋渡り天仰ぐ
ほろけて揺らぐ 重心は何処!!

真っ直ぐな一步が 芯を外して
しづしづと寄す老ひを抱き止む

おみな 婼なり よろめきつつも主に抱かれ
舞ひつつ受けませ 老ひのしづくよ



阿部 八重子

靴を履く時、よろけ
てふらっと。蓋の開閉
に力が入らない、物忘
れはますます冴え渡る、
お笑いは、移動時、ヨ
イショから、昨年夏あ
たりからドッコイショ
へと掛け声続く。

2019/1月末～2019/2月末までの教会活動の情報と地区教会活動との関わり

THE MINISTRY by Chuck Swindoll

The foundation of ministry is **CHARACTER**, not a professional skill.

The nature of ministry is **SERVICE**, not being served.

The motive for ministry is **LOVE**, not money or power.

The measure of ministry is **SACRIFICE**, not success.

The authority of ministry is **SUBMISSION**, not pulling rank.

The purpose of ministry is **TO GLORIFY GOD**, not to glorify ourselves.

The tools of ministry are **PRAAYER AND SCRIPTURES**, not marketing handbook.

The privilege of ministry is **GROWTH**, which may be in depth rather than in numbers.

The power of ministry is **THE HOLY SPIRIT**, not programs.

The model for ministry is **JESUS CHRIST**, not a corporation or a man.



アドナイ・イルエ

「アドナイ・イルエ」=主の山に備え在り

信仰の歩みの中で

見えない道の先に (その2)

荒井キリスト教会

阿部タ子

私はクリスチヤンとされて、神様に『私は盲目で一人では歩けないので、助け導いてください。あなたを信頼し、みことばに聞き従います。』と決心をした者のはず。でも実際は、自分の今までの経験や考え、自分の良いと思うことに頼り、私が道を進もうとしている者です。本当に自分が【見えない者】だと言うのであれば、神様が引かれる手を全面的に信頼しまかせる他はないはずです。

しかし私は、せっかく神様が引いてくれている手を自分から振り払おうとする者だということを思われました。私は神様に『見えない者です。』と偽っているだけの者だと気付かされました。私が同行した女性の年齢は解りませんが『36歳の時に全盲になった。『道を歩けるようになるまで、ずいぶん訓練したのよ。』と言っていました。

私に対する【神様の計画】を私は見ることは出来ません。目が見えているからこそ見ようとしてしまうけれど・・・どんなに自分で見ようと頑張っても【神様の計画の道】は見えません。だからこそ【神様の手とことば】が必要だし、そこに全信頼を置かなければ自分が歩く訓練にもなりません。

『神様に委ねます。信頼します。』と祈りはするけれど、神様に委ねきる【全き信頼】が口先だけのものになりやすく、簡単なことでもないということを考えさせられる出来事となりました。

今もまだ夫の抗がん剤治療が続く中や、その他もろもろの試練がある中にあって、先が見えなく私自身の心が折れそうになる時があります。でももし私の心が折れたとしても、それでも神様が導く道を進むほかない中で『だって、今はこういう状況なんだから仕方ない。』ではなく『先には何も見えないけれど、神様の最善の道を進んでいるんだ。』という信頼をしっかりと持て一日一日を歩めるようになりたいと思います。

しかし神様の不思議な計画は、これで終わりではありませんでした。

同じ女性にまた会うとういうことが、数日後になりました。しかも先日会ったバスコースではない別のバスコースでした。

ちなみにそのバスコースは私がたまに乗るコースですが、その女性を見かけたことは一度もありません。その日は仕事が早く終わり、そのバスコースのバス時間に間に合いそうだったので、急ぎ足で歩きそのバスに滑り込みました。

私がバスに乗ると、杖を持っている女性が座っているのが見えた。『まさかね。』と思いつながらその女性を見ると先日の方でした。私は驚きながらもその方に声を掛け、今度は自分の名前を名乗り、その方の名前もきました。

その後、降りるべきバス停に到着しましたが、そのバス停はいつものバス停よりもマンションまでの距離が遠く、いつもの倍の帰り道になります。前回のようにゆっくりとその方と一緒に歩いて行きましたが、その方の住むマンションの前に大きなトラックが止まっていました。そのことを伝えつつ『入口に車などが止まっている時は、どうされるんですか。』と聞くと、その方は『うん、でも私、構わず杖でコンコンたたきながら歩いて行くの。時々ぶつかったりするけどね。』と笑いながら話してくれましたが、私は複雑な思いの中で『そうなんですか。』としか言えませんでした。

【障害物があつても構わずにいく】という言葉も私には考えさせられる言葉でした。神様が導く道を行く時に、人間的には思いもよらない障害物にぶつかる時があります。でもそれは神様側では【計画の内】のことです。その道を神様に信頼して進んで行くことによって【見えない道、新しい領域】へと導いてくださるんだなと思いました。その領域が何なのか、すぐには理解できませんが、神様が導く御手を離さずに歩いて行きたいと思います。

『それからトマスに言われた。あなたの指をここに当てて、わたしの手を見なさい。手を伸ばして、わたしの脇腹に入れなさい。信じない者ではなく、信じる者になりなさい。』トマスはイエスに答えた。『わたしの主、わたしの神。』イエスは彼に言われた。『あなたはわたしを見たから信じたのですか。見ないで信じる人たちは幸いです。』

(ヨハネ20章27節～29節)

